

## 御影・住吉の劇場と舞台写真

藤岡真衣

明治期以降、大阪や神戸には多くの劇場が建ち、歌舞伎のほかにさまざまな演劇が上演されて賑わいをみせた。阪神間の劇場や興行については、大正10年（1921）に刊行された『武庫郡誌』に詳しく、旧住吉村には「龍美座」、西隣の旧御影町には「文玉亭」があった。

龍美座と文玉亭に関する資料は、あまり残っていないが、今回、両劇場に関わる歌舞伎の舞台写真（小栗栖健治氏所蔵）を実見する機会を得たので、ここに紹介したい。

写真は5点で、それぞれ台紙に貼り付けられており、その裏面には、劇場名、年月日、演目名、人物名などのメモが残っている。このうちの3点の台紙の裏面には、「御影町瀧美座」、「御影町瀧美座」、「御影町文曲亭」とあり、おそらく、これらは「龍美座」と「文玉亭」を示していると考えられる。

龍美座は、現在の阪神電車住吉駅の西側、住吉南町5丁目に位置していた。前身は「朝日座」と称し、御影町の黒田駒吉が、神戸市小野から劇場を移して設立した。その時期は不明だが、明治24年（1891）12月の『大阪毎日新聞』には、歌舞伎の上演を知らせる記事がみえる。

明治34年（1901）以降、朝日座の所有者は2度変わったが、ひと月の公演日数は10日に満たなかったという。

大正2年（1913）に、大阪市の横山たけが所有することになり、大正5年（1916）1月、辰の年にちなんで、龍美座へと改称された。

写真1は、その翌年の大正6年（1917）12月12日に上演された歌舞伎の演目『菅原伝授手習鑑』の「車曳（車引）」を撮影したものであり、舞台の中央に、右から松王丸、梅王丸、桜丸の3人と、背後に藤原時平が写っている。

写真2は、大正11年（1922）12月18日に、『本朝廿四孝』の三段目切を上演した際に撮影したもので、舞台上には役者だけでなく関係者の姿もみられる。

龍美座のあった付近は、六甲山地の湧水を用



写真1 裏面のメモ「大正六年拾二月十二日」  
「御影町瀧美座ニ於テ」  
「菅原車場」



写真2 裏面のメモ「大正十一年十二月十八日」  
「御影町瀧美座ニ於テ」  
「本朝二十四孝三段目切」

いた酒造地として栄えてきた地域であり、観客には、労働者などが多かった。この頃には、地域の発展にともなって、ひと月に25日以上継続して興行するようになっていた。

一方の文玉亭は、御影町御影字上西（現在の御影本町8丁目）にあった。『武庫郡誌』には、明治42年（1909）7月17日に設立されたとしているが、明治38年（1905）7月の『神戸新聞』に、文玉亭で浮世節を興行していたことを伝える記事がある。

大正3年（1914）1月から同年12月にかけての文玉亭の興行回数は13回で、その内容は、浪花節、喜劇、万歳、奇術、尺八吹奏会であった。

写真3は、大正5年12月12日に、『鬼一法眼三略巻』の「菊畑」を上演した際に撮影したものである。舞台の上手（右側）には浄瑠璃の太



写真3 裏面のメモ「大正五年拾貳月拾二日」  
「御影町文曲亭ニ於」 「菊畑」

夫が座り、舞台上には、右から湛海、鬼一法眼、皆鶴姫、智恵内、虎蔵に扮した役者が写っている。

その後、龍美座は、昭和8年（1933）に改装されて「御影劇場」と名を変え、映画演芸の常設館になった。文玉亭は、大正13年（1924）まで存続していたことが確認できるが、昭和になってからも興行していたかは不明である。

このようにみえてくると、これらの写真は、龍美座と文玉亭の興行が栄えていた時期の様子を伝えている。

また、写真の台紙の裏面には出演者と考えられる名前が記されており、いずれも芸名ではないことから、素人芝居の可能性が高い。『住吉村誌』には、明治年間に素人芝居が盛んで、御影・住吉の同好者が一座を組んで龍美座などで歌舞伎を演じていたことが記されている。写真は、そうした人びとを撮影したものかもしれない。

残りの2点は、撮影場所がはっきりしないが、写真4は、大正8年（1919）11月25日に上演された「大蔵卿御殿物語」（『鬼一法眼三略巻』の



写真4 裏面のメモ「大蔵卿御殿物語」 「大正八年十一月廿五日」



写真5 「菊畑」の出演者か  
※裏面にメモはみられない

「一條大蔵譚」)を撮ったものである。写真5は、撮影時期や演目名も不明だが、おそらく「菊畑」の出演者を写したものと考えられる。ただ、それぞれの台紙表面の右下には、「御影藤田」（写真1、3、4）、「大阪市北区西野田中江町 本田北雷写真館」（写真2）、「林繁雄写真場 西宮札場筋」（写真5）などの写真館の名前が印刷されている。写真4、5は、阪神間にあった別の劇場の舞台を撮影したものかもしれない。

阪神間にあった小さな劇場に関する調査・研究はあまり進んでいない。こうした写真が活用されれば、当時の劇場の舞台や出演者の様子をより具体的に知ることができる。

最後になりましたが、所蔵資料の調査を御快諾していただいた神戸女子大学古典芸能研究センター客員研究員の小栗栖健治氏、旧御影町とその周辺に関する資料について御教示を賜った神戸深江生活文化史料館館長の大国正美氏、同館副館長の道谷卓氏に心から御礼を申し上げます。

〈主な参考文献・参考資料〉

- ・前田慶三『魚崎町 住吉村 御影町 新地図 阪神沿道案内』前田工務所、1921年
- ・武庫郡教育会編『武庫郡誌』武庫郡教育会、1921年
- ・『大日本職業別明細図 索引付住所入 信用案内 第五一三号 兵庫県 御影町 魚崎町 精道村 本山村 本庄村 住吉村』東京交通社、1937年
- ・谷田盛太郎編『住吉村誌』武庫郡住吉村、1946年
- ・続・御影町誌編纂委員会編、道谷卓監修『続・御影町誌』御影地区まちづくり協議会、2014年

関西大学非常勤講師